

8月7日の早朝自宅を出発し倉敷市真備町（倉敷市のベッドタウン）に向かう。倉敷駅から伯備線の清音駅で下車。井原鉄道が豪雨被害で運休しているので徒歩のつもりであったが、駅に無料自転車がありそれを借りて被害中心部に向かった。



高梁川を渡り川沿いを進むと河川敷に濁流で倒れた木が見えはじめた。



小田川に到着。河川敷には木が森の様です。





街に入ると水没した家。



約 5m 水没した家を 2 階から小型の船に救出された人にお話を聞きましたが、過去の被害から 1 m くらいかなと思っていたそうです。

今日は倉敷に泊まり明日からボランティアに行きます。

8 月 8 日新倉敷駅からシャトルバスで倉敷市災害ボランティアセンター（本部）に行き、ボランティアの受付をしました。もう 300 人くらいは来ています。



オリエンテーション終了後で 1 チーム 5 名編成の 45 名単位で、被災地にあるサテライトにバスで行きました。



8日は川辺サテライト。



4チーム20名で4.5m浸水した家の片付けに歩いていきました。

2階は畳上80cmまで水が来たようですが1階の屋根に上って救出を待ったそうです。



土嚢袋の中は濡れた思い出のものが入っています。

フローリングを剥がしていないので床下が気になります。

9日は箭田(やた)サテライト。

2チーム10名で4.8m浸水した家の片付けに歩いて向かいました。

内装と断熱材がまだまだ残っているので、乾燥が進んでいません。

ご主人と相談し石膏ボードとグラスウールの断熱材の撤去、作り付けのクローゼットと下駄箱の解体撤去をすることにしました。解体中水が出て来ますし、もちろん壁などはカビています。



フローリングの撤去がまだなので、早急に剥がした方が良くとご主人にお話しをした。

10日も箭田サテライト。

6チーム30名で小田川決壊堤防近くの5m浸水した家の片付け現場までワゴン車で送っていただく。

旧家なので土壁です。落ちた土壁を土嚢袋に入れて集積場まで運ぶ。

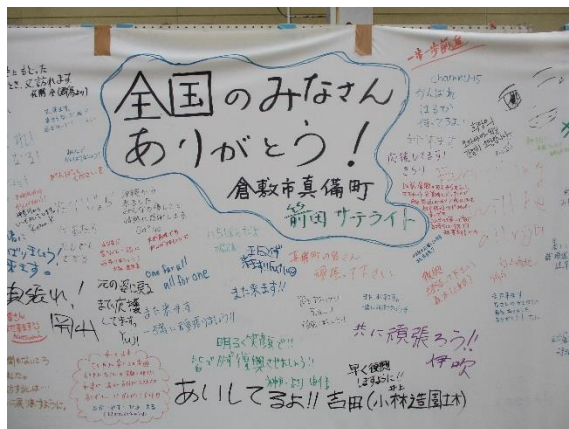


また、敷地に溜まった5cmほどの堅くなった土砂の撤去は炎天下での作業なので一番きつかった。

汗びしょりでマスクも濡れ、呼吸するたびに汗が入って来る。

マスクは何枚も交換。水分は5リットルも飲んだ。

無事作業が終了し借りた資機材を洗浄して返却し、泥だらけになった長靴を洗浄。



活動中ボランティアさんは1200~1400人来られていました。

若い人が多かったです。

少しは被災地のお役に立てたと思うし、自分の勉強にもなった。

地元に戻ってこれを活かせるような取り組みをしたい。

17時の新幹線で帰路につきました。